

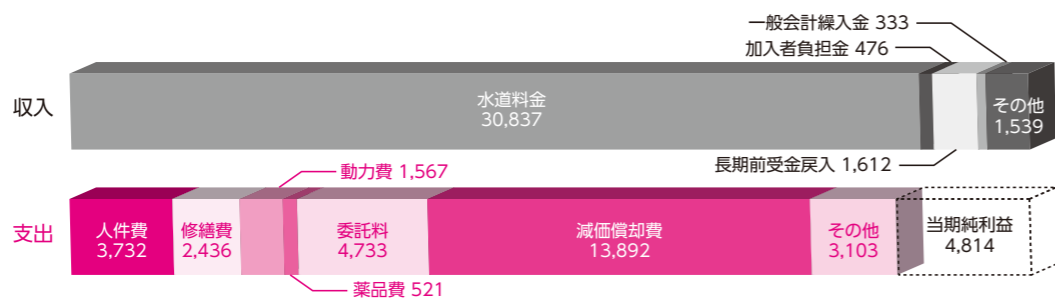
## 2. 経営状況

### (1) 収益的収支【税抜き】

収入合計 34,797 万円  
支出合計 29,983 万円

**4,814 万円の黒字**

※各項目で四捨五入しているため、合計と合わない場合があります



収入では、給水人口や有収水量の減少により、料金収入は前年度と比較して 0.6% 減の 30,837 万円となりました。収入全体では 34,797 万円となり前年度と比較して 0.2% の減となりました。支出では、経費の節減を図っており、支出全体で 29,983 万円となり前年度と比較して 4.9% 減となりました。これにより収支では 4,814 万円の純利益（黒字）となっております。

### (2) 資本的収支【税込み】

収入合計 468 万円  
支出合計 6,241 万円

**5,773 万円の赤字**



資本的収支では、収入額 468 万円に対して支出額は 6,241 万円となり、5,773 万円の不足となりました。その不足に対しては、内部留保資金の減価償却費等（非現金支出）や積立金を取り崩して補てんしました。建設改良工事は、西根杉ノ崎地区他 4 地区で水道管を新たに布設、永沢下谷地地区で老朽化した水道管の更新工事を実施しました。

### 水道事業のまとめ

水道事業会計は、長年にわたり安定経営を維持していますが、給水量は減少してきており今後も水道料金収入の減少が見込まれる一方で、老朽化が進んでいる浄水施設や配水管などの維持管理費や更新事業費、更には国道 4 号拡幅にかかる配水管の移設などにより、今後費用が増加していくことからこれらの財源の確保や、広域水道用水供給事業への対応が今後の課題となっております。

## 決算の説明

令和元年度水道事業・下水道事業

水道事業会計と下水道事業会計は公営企業会計を適用しており、官庁会計では、収入を歳入、支出を歳出とし、それぞれの合算を差引したうえで剰余金を計算しますが、公営企業会計では、**収益的収支**と**資本的収支**に区分して経理しています。

▶ **収益的収支**とは・・・水道水を送り届けたり、汚れた水を処理したりするための経費（維持管理費）とその財源となる収入を表したものです。

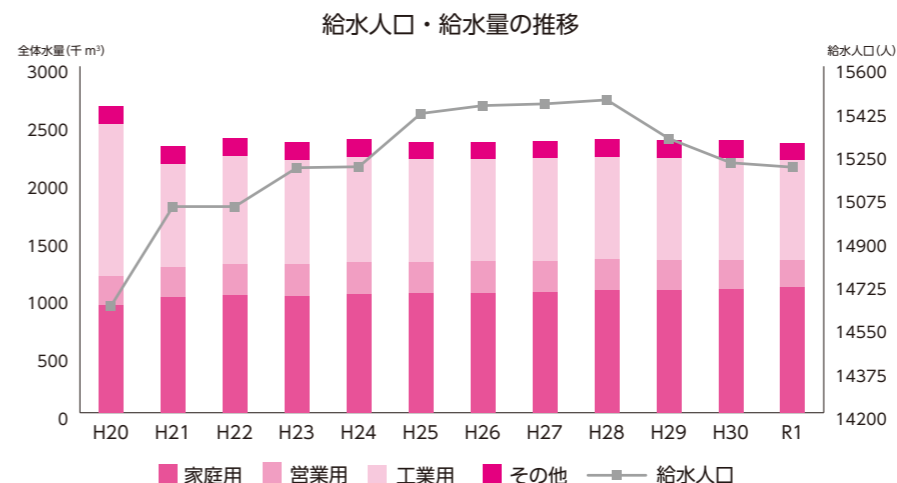
▶ **資本的収支**とは・・・施設の新設や老朽化施設の更新などの費用、企業債償還金（借入金返済）などの支出とその財源となる収入を表したものです。

## 水道事業の決算状況

### 1. 年間業務量

区分	令和元年度	平成 30 年度	比較
①行政区人口	15,550 人	15,569 人	△ 19
②給水人口	15,192 人	15,210 人	△ 18
③給水戸数	5,746 戸	5,604 戸	+142
④普及率 (② / ①)	97.7%	97.7%	0
⑤年間配水量	2,808,857 m <sup>3</sup>	2,746,432 m <sup>3</sup>	+ 62,425
⑥給水量 (年間有収水量)	2,332,288 m <sup>3</sup>	2,356,121 m <sup>3</sup>	△ 23,833
⑦有収率 (⑥ / ⑤)	83.0%	85.8%	△ 2.8

令和元年度は、平成 30 年度と比べ給水戸数は増加したものの、給水人口及び給水量は減少しました。



当町における年間配水量の特徴として、工業用の割合が高いため、経営の安定が図られています。しかし、H29 から給水人口及び給水量は減少し続けており今後も減少が見込まれています。

# 令和元年度 水道事業決算状況

広報かねがさき 9 月号で水道事業会計と下水道事業会計の決算額をお知らせしましたが、10 月号ではより具体的な内容についてお知らせします。